山　梨　県
商工会地区

中小企業景況調査報告書

（平成20年１月～３月実績
平成20年４月～６月予測）

未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目　　次

Ⅰ　調　査　要　領 …… 1

Ⅱ　景　　況

1．産業全体の景況概観 …… 2

2．製造業の動向

⑴　景　況　概　観 …… 3

⑵　主な項目でみる業況 …… 3

3．建設業の動向

⑴　景　況　概　観 …… 6

⑵　主な項目でみる業況 …… 6

4．小売業の動向

⑴　景　況　概　観 …… 9

⑵　主な項目でみる業況 …… 9

5．サービス業の動向

⑴　景　況　概　観 …… 12

⑵　主な項目でみる業況 …… 12

【Ⅰ】 調 査 要 領

１．調 査 対 象

⑴ 対 象 地 区　　１１商工会

⑵ 対 象 企 業 数　　１６５企業

⑶ 回 答 企 業 数　　１６５企業

２．調査対象期間

第４四半期　　平成20年１月～３月期

調 査 時 点　　平成20年３月５日

３．調 査 方 法

県下の調査対象企業を１１商工会の経営指導員が訪問面接調査

４．調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービス業	計
都 留 市	3	3	5	4	１５
南アルプス市	3	2	5	5	１５
北 杜 市	4	2	5	4	１５
甲 斐 市	3	3	4	5	１５
笛 吹 市	3	2	4	6	１５
上 野 原 市	3	3	4	5	１５
甲 州 市	3	2	6	4	１５
鰍 沢 町	4	2	6	3	１５
身 延 町	4	2	6	3	１５
中 央 市	4	2	6	3	１５
河 口 湖	4	2	6	3	１５
計	３８	２５	５７	４５	１６５

５．そ の 他

本報告書のＤＩ値とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

【Ⅱ】　景　　況

1．産業全体の景況概観

本県の「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」4業種の過去2年間の売上額(完成工事額)の推移は下図のとおりである。ここでいう売上額ＤＩとは、今期の売上額状況を前年同期と比較したものである。まず、製造業から見ていくと前期の売上額ＤＩはマイナス29.8であったものが、今期はやや悪化しマイナス30.5となった。2期続けての低下である。これまで景気を牽引してきた製造業であるが、下図をご覧いただくと分かるように、小売業とのＤＩ格差は6.4ポイントしかない。

建設業は、年度末を迎えて公共事業の受注増の影響だろうか、前期より25.2ポイント改善しマイナス48.0であった。しかし今期、県内大手企業が倒産し、下請中小企業の連鎖倒産等の悪影響が懸念される。

小売業は2期続けてのＤＩの改善である。しかし、2.4ポイントと小幅の改善で前期マイナス39.3からマイナス36.9になった。

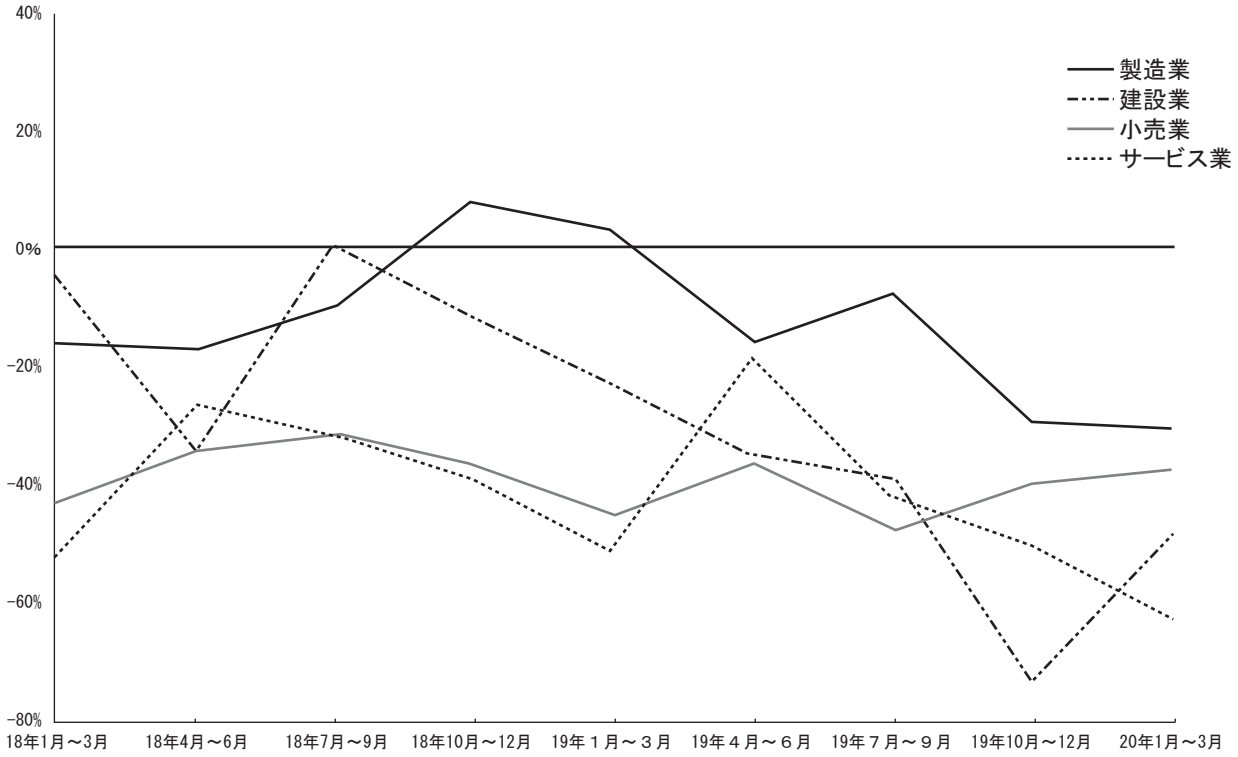
最後にサービス業であるが3期連続の悪化で、前期マイナス50.0から12.3ポイント低下してマイナス62.3であった。４産業のうちサービス業のＤＩは最も悪く、今後の景況が心配される。

サブプライムローンによる米国発の金融不安から、わが国経済はドル安・円高、株安に振れ、さらに原材料高が収まらずマクロ環境の厳しさが増している。今期の中小企業の景況ＤＩにおいては、さしたる影響を及ぼしているという結果とはいえないが、今後の推移を注意深く見守る必要があろう。

次に、4業種の来期の見通しＤＩについては、製造業は大きく改善傾向を見せマイナス8.0である。中小企業経営者のマインドは、それほど深刻でもないことを窺わせる。建設業は、逆に経営者マインドは弱気でマイナス76.0と一段と冷え込む。小売業も、マイナス64.8と前期より27.9ポイント悪化の見通しである。サービス業は、15.5ポイント改善しマイナス46.8の予測である。

山梨県　全産業 DI

売上（完成工事）額の推移　－前年同期比－

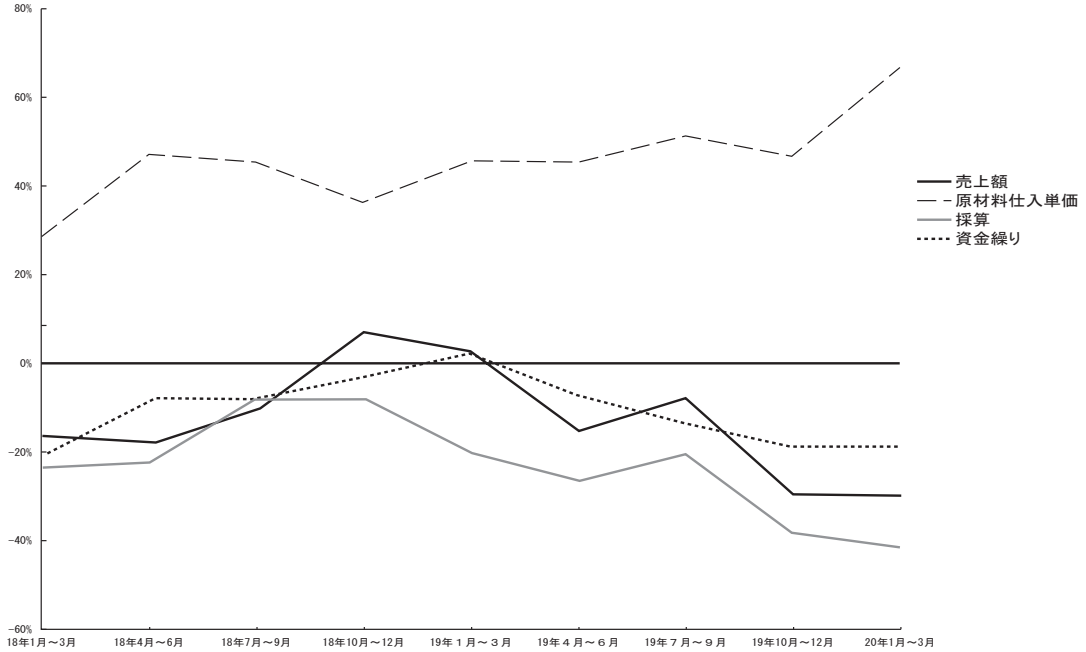


2. 製 造 業 の 動 向

1. 景 況 概 観

下図は、製造業の過去2年間の「売上額」「原材料仕入単価」「採算」「資金繰り」の推移状況を表わしたものである。売上額については、すでに述べたとおりである。原料仕入単価ＤＩは、前期下げ止まった感があったが、今期また20.5ポイントも上昇して67.6である。来期の見通しは、今期より幾らか低下し58.9と依然として高止まりの状況が続く。採算ＤＩは、3期続けての悪化でマイナス41.6である。来期の見通しは、19.4ポイント改善しマイナス22.2である。資金繰りＤＩについては、前期と同様のマイナス18.9で横ばい状況である。来期の見通しは、かなり改善しマイナス8.1である。

山梨県　製造業 DI　　主要景況項目の推移－前年同期比－

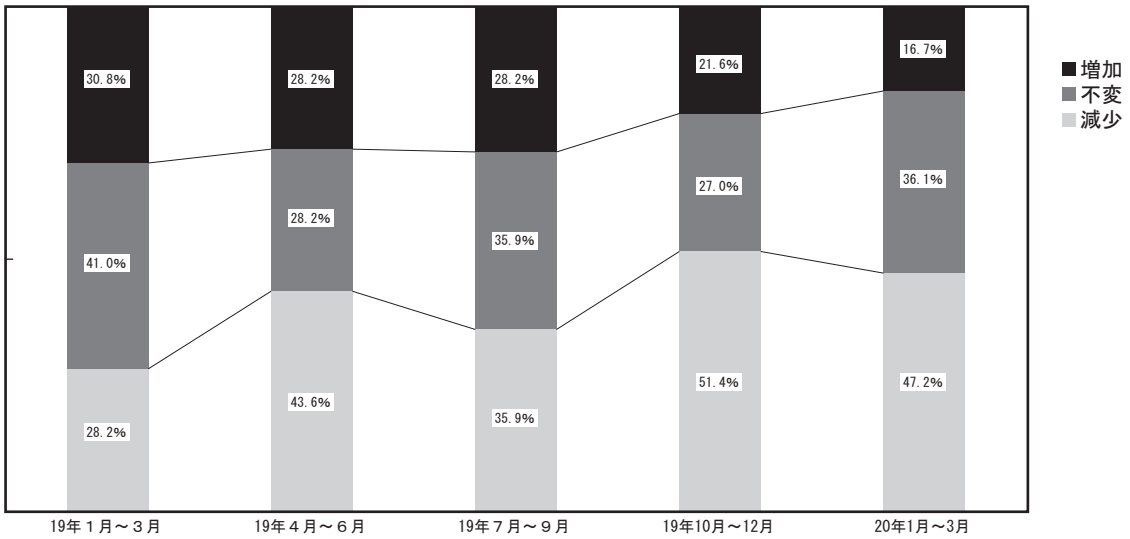


2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

下図は、過去1年間の「売上額」の前年同期比で見た増減状況の推移を示したものである。ここでは、前記した当期の売上額ＤＩマイナス30.5となった回答の中身を見てみよう。「増加」と答えた企業の割合が前期より4.9ポイント減り16.7%、「不変」は27.0%から9.1ポイント増え36.1%、「減少」が51.4%から4.2ポイント低下し47.2%になった。前期と比べると「不変」が増え、「増加」と「減少」とも低下した。

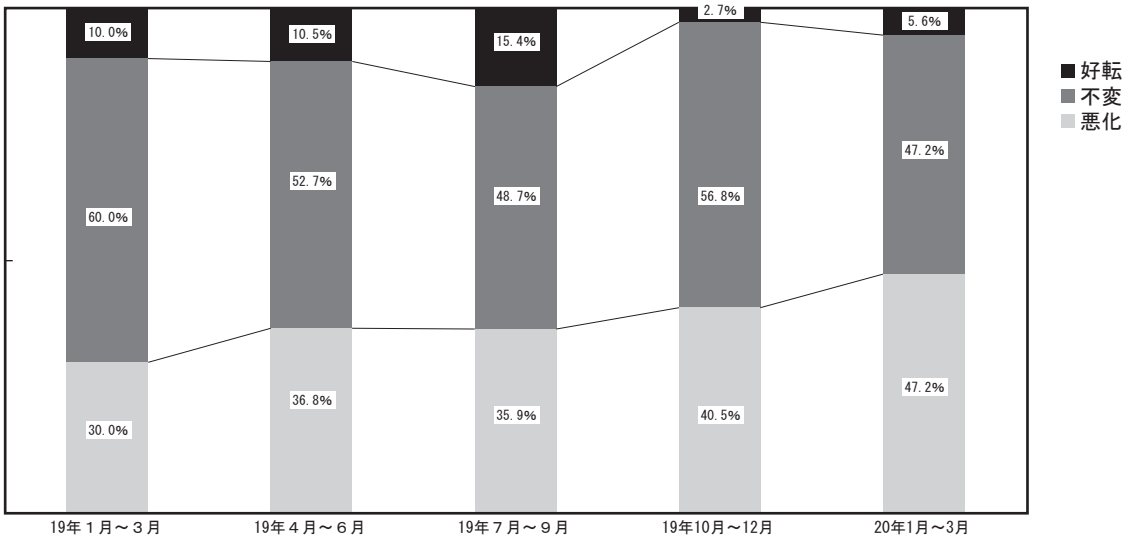
山梨県　製造業　　売上額の状況－前年同期比－



⑵　採　　算

今期の採算ＤＩマイナス41.6についても、その詳細を見てみよう。「好転」が前期1社の2.7%から2社に増え5.6%に、「不変」が56.8%から9.6ポイント減り47.2%に、「悪化」が40.5%から6.7ポイント増加して47.2%となった。「悪化」がこの1年間増加傾向を続けて、「不変」の回答に並んでしまった。

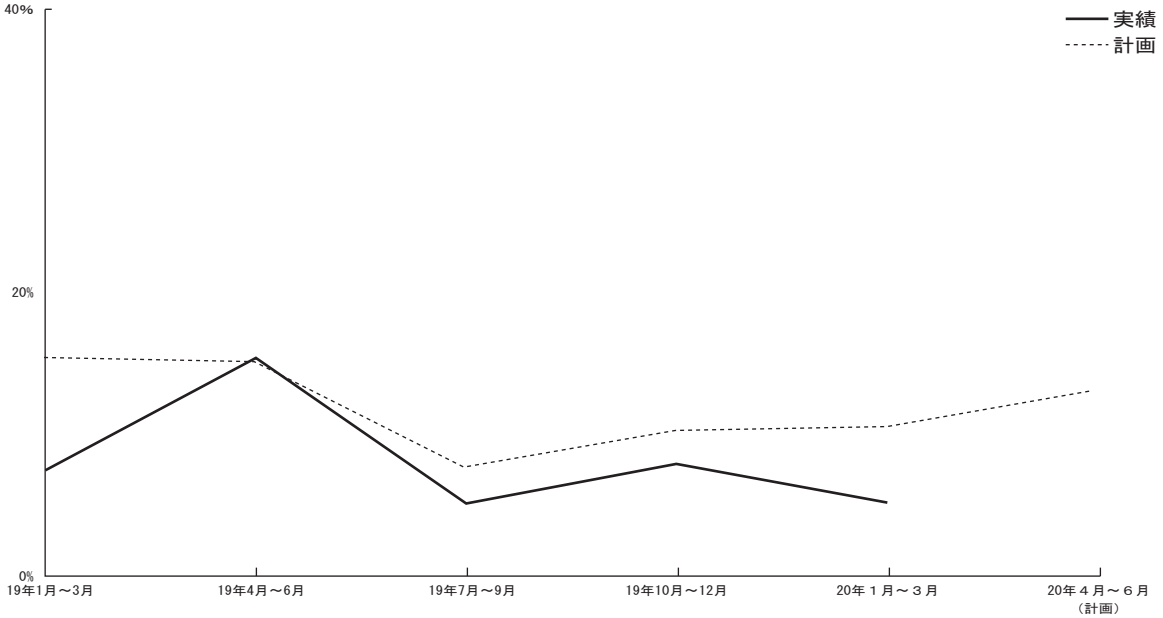
山梨県　製造業　　採算の状況－前年同期比－



⑶　設備投資

下図は、過去1年間の設備投資の状況を示したものである。設備投資した企業の割合は、前期3社の7.9%であったが今期は2社の5.3%であった。その内訳は、「土地」が2件、「生産設備」が1件であった。来期の計画は、5社の13.2%で「生産設備」と「ＯＡ機器」がそれぞれ3件、「工場建物」「車両・運搬具」「付帯施設」「その他」が各1件ずつである。

山梨県　製造業　　設備投資の状況

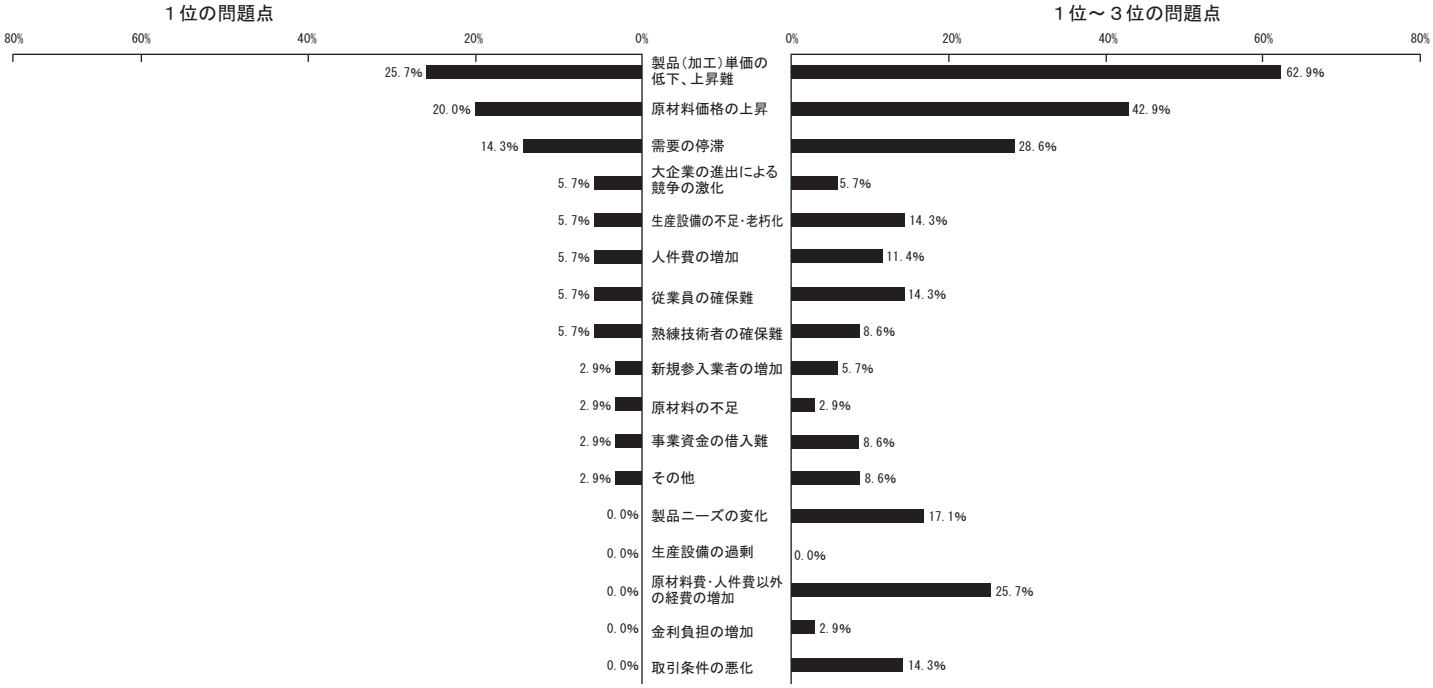


(4)　経営上の問題点

製造業における経営上の問題点は、下図のとおりである。まず最優先事項の問題点である「一位」に挙げたものから見ていくと、「製品(加工)単価の低下、上昇難」が9社の25.7%で最も多く、「原材料の価格の上昇」が前期と同じく7社の20.0%と続いている。3番目に多いのは、「需要の停滞」で5社の14.3%という結果である。その他の答えは、2社以下が答えるに止まっている。

次に「一～三位」を見ると、上位3番目までの回答は「一位」に挙げたものと全く同じ順位である。「製品(加工)単価の低下、上昇難」が22社で62.9%、続いて「原材料価格の上昇」が15社の42.9%、「需要の停滞」が10社の28.6%である。そして、3番目の答えとほぼ同数で「原材料費・人件費以外の経費の増加」が9社で25.7と続いている。

山梨県　製造業　　経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5)　回答企業の内訳

業種別

業　　種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	6	15.8
衣服・その他繊維製品製造業	1	2.6
印刷・同関連業	2	5.3
化学工業	1	2.6
プラスチック製品製造業	4	10.5
窯業・土石製品製造業	2	5.3
金属製品製造業	1	2.6
一般機械器具製造業	6	15.8
電気機械器具製造業	2	5.3
輸送用機械器具製造業	4	10.5
精密機械器具製造業	2	5.3
その他製造業	7	18.4
合　計	38	100.0

従業員規模別

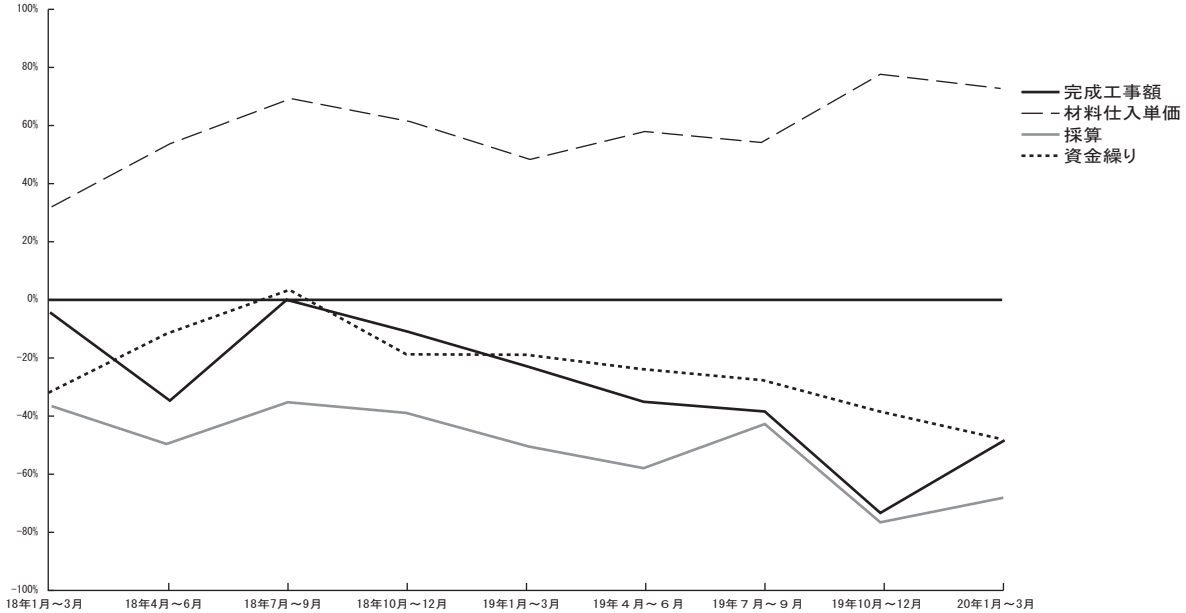
雇用形態 / 従業員数	常　雇　い		臨時等含む	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2人以下	18	47.4	12	31.6
3人～5人以下	8	21.0	10	26.3
6人～10人以下	3	7.9	7	18.4
11人～20人以下	4	10.5	3	7.9
21人～50人以下	5	13.2	6	15.8
合　　計	38	100.0	38	100.0

3. 建　設　業　の　動　向

1. 景　況　概　観

「完成工事額」については、産業全体の景況概観で述べたので「材料仕入単価」「採算」「資金繰り」を見ていきたい。材料仕入単価ＤＩは、ここ1年間で最も高かった前期76.9から、やや低下し72.0であった。来期の見通しは、さらに16.0ポイント低下し56.0である。採算ＤＩについても、前期マイナス77.0からいくらかの改善を見せ、マイナス68.0になった。来期の見通しは、ほぼ横ばいのマイナス64.0である。資金繰りＤＩは、前期マイナス38.5から約10ポイント後退しマイナス48.0となっている。来期の見通しは、一段と悪化しマイナス52.0である。前記したように本県建設業は、嵐に吹き曝されている経営環境化にあり、誠に厳しい状況が続いている。

山梨県　建設業 DI　　主要景況項目の推移－前年同期比－

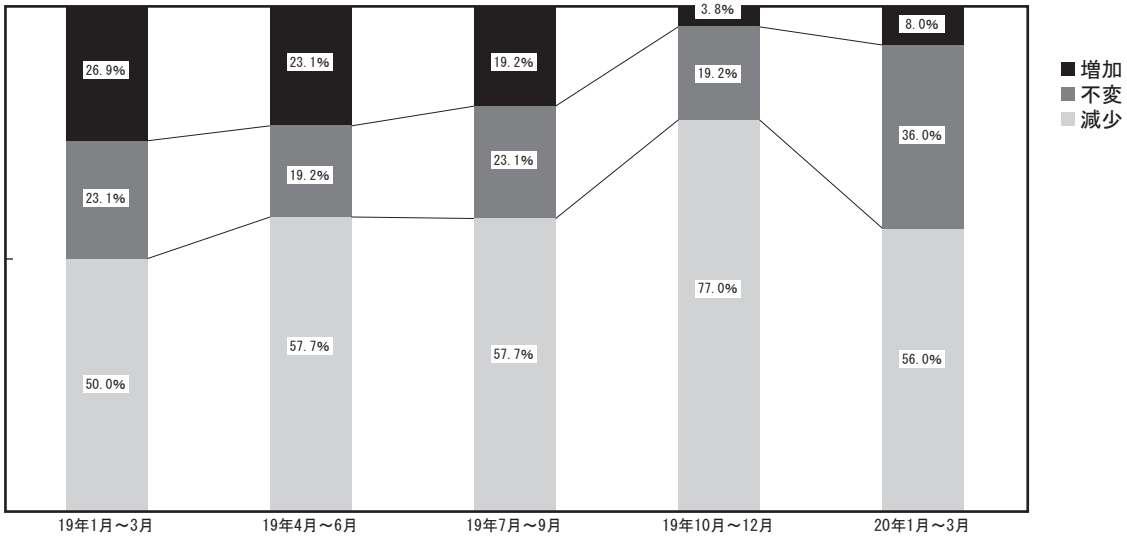


2. 主な項目で見る業況

(1)　完成工事額

過去1年の「完成工事額」の状況の推移を表わしたものが下図である。今期完成工事額ＤＩマイナス48.0の内訳をみると、「増加」が前期１社から2社に増え8.0%、「不変」が前期19.2%から16.8ポイント上がり36.0%、「減少」は77.0%から21.0ポイント下降して56.0%であった。「減少」と答えた企業が14社に少なくなったことが、完成工事額ＤＩの改善をもたらした主な要因である。

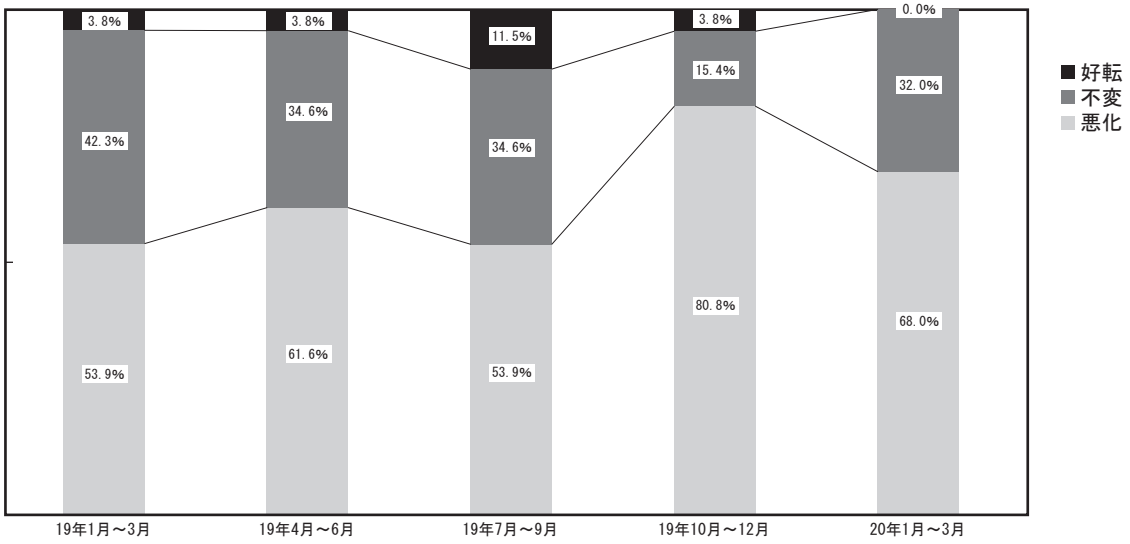
山梨県　建設業　　完成工事額の状況－前年同期比－



⑵　採　　算

採算状況の詳細を見ると下図のようになる。今期採算ＤＩマイナス68.0の内訳は、「好転」が前期１社からゼロになり、「不変」が前期15.4%から16.6ポイント増え32.0%、「悪化」は前期80.8%から12.8ポイント低下し68.0%になった。来期の見通しについてのＤＩは、「好転」と答えた企業は相変わらずゼロで、「不変」と「悪化」についてもほとんど変わっていない。

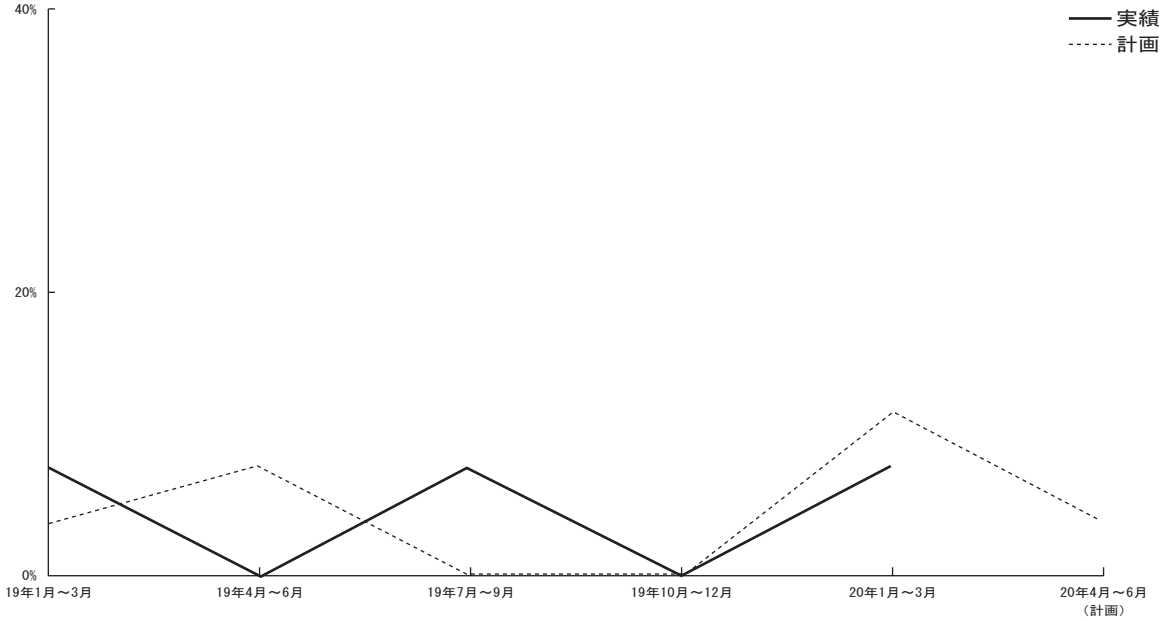
山梨県　建設業　　採算の状況－前年同期比－



⑶　設備投資

前期の設備投資は皆無であったが、今期は2社が実施し、その内訳は「車両・運搬具」と「ＯＡ機器」が1件ずつであった。来期の見通しについては、1社のみの計画で、その内容は「付帯施設」である。設備投資状況を見ても、経営者マインドが冷え込んでいることが分かる。

山梨県　建設業　　設備投資の状況

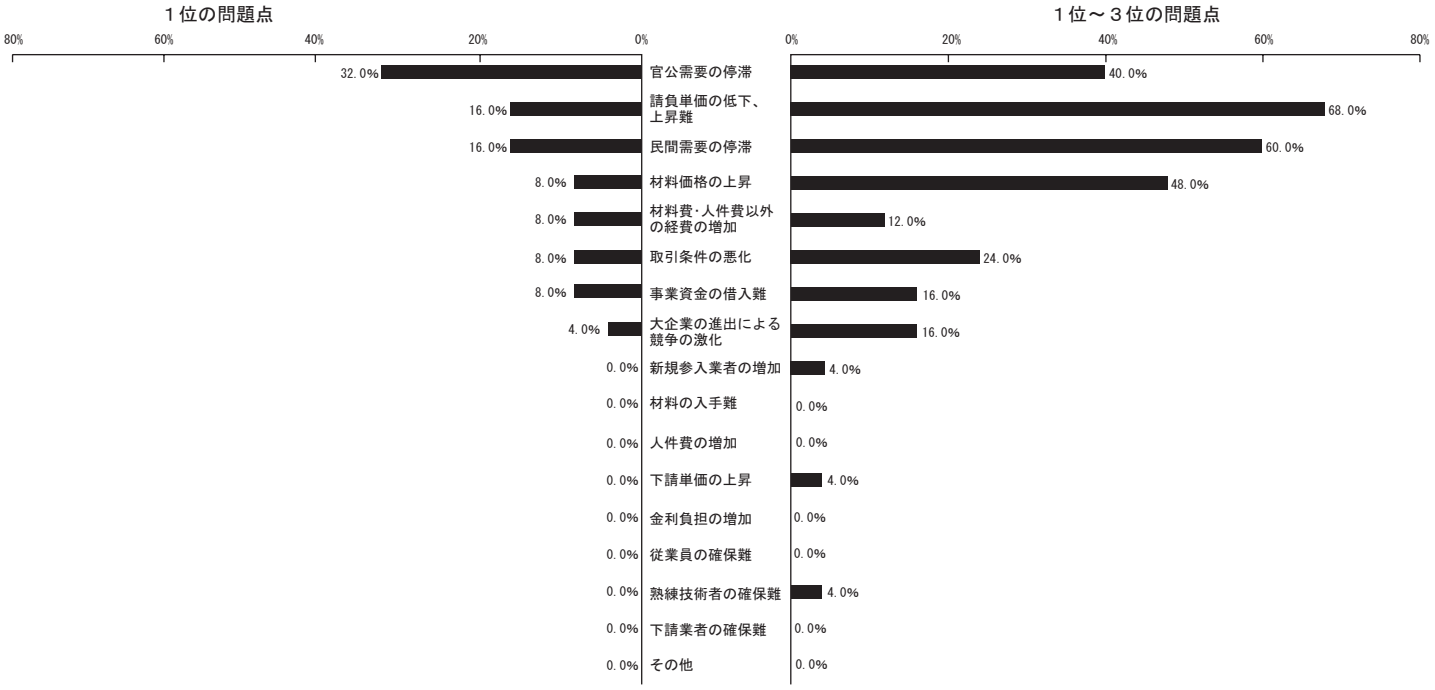


⑷　経営上の問題点

まず、「一位」に挙げたものから見ていくと、最も多かった答えは相変わらず「官公需要の停滞」が8社で32.0%、続いて「民間需要の停滞」と「請負単価の低下、上昇難」が4社ずつで16.0%であった。前期の回答とほとんど変わっていない。

次に「一～三位」を見ると、最も多かった答えは「請負単価の低下、上昇難」で17社68.0%、続いて「民間需要の停滞」が15社の60.0%、「材料価格の上昇」が12社の48.0%、そして「官公需要の停滞」が10社の40.0%であった。このところ常に、上位に挙げられる経営の問題点は変わりないが、官民の需要の停滞による入札状況の競合激化から、「請負単価の低下、上昇難」が経営を苦しめていることが見てとれる。

山梨県　建設業　　経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



⑸　回答企業の内訳

業種別

業　　種	企業数	構成比(%)
総合工事業	18	72.0
職別工事業	5	20.0
設備工事業	2	8.0
合　計	25	100.0

従業員規模別

雇用形態 ＼ 従業員数	常　雇　い		臨時等含む	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
２人以下	10	40.0	9	36.0
３人～５人以下	8	32.0	8	32.0
６人～１０人以下	1	4.0	2	8.0
１１人～２０人以下	4	16.0	4	16.0
２１人～５０人以下	2	8.0	2	8.0
合　　計	25	100.0	25	100.0

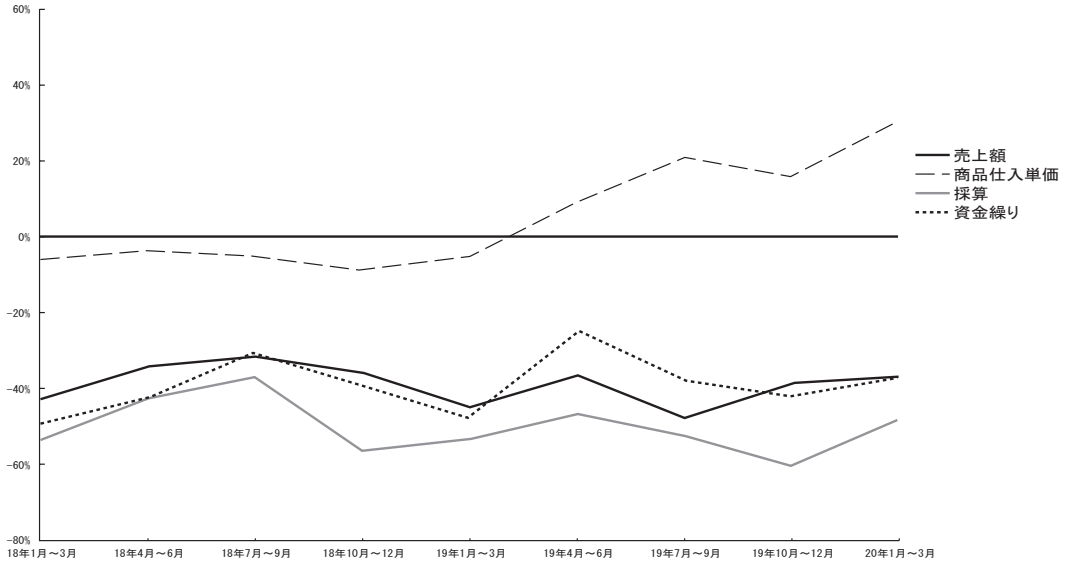
4. 小 売 業 の 動 向

1. 景 況 概 観

「売上額」については、これまでに見てきたとおりであるので、「商品仕入単価」「採算」「資金繰り」についての解説をしたい。商品仕入単価ＤＩは前期16.4であったが、今期は14.0ポイント上昇し30.4になった。19年度第1四半期にプラスに転じてから最も高いＤＩである。来期の見通しは、14.8と低下し前期を下回る。しかし、食料品をはじめ日用品の値上がりが予想され、気になるところである。

次に採算ＤＩであるが、前期のマイナス60.7が今期はマイナス48.3となり、12.4ポイント改善された。来期の見通しについては、マイナス57.1と逆戻りする。資金繰りＤＩも、前期マイナス41.1から幾らか改善しマイナス37.5であった。来期の見通しは、悪化してマイナス46.4である。

山梨県　小売業 DI　　主要景況項目の推移－前年同期比－

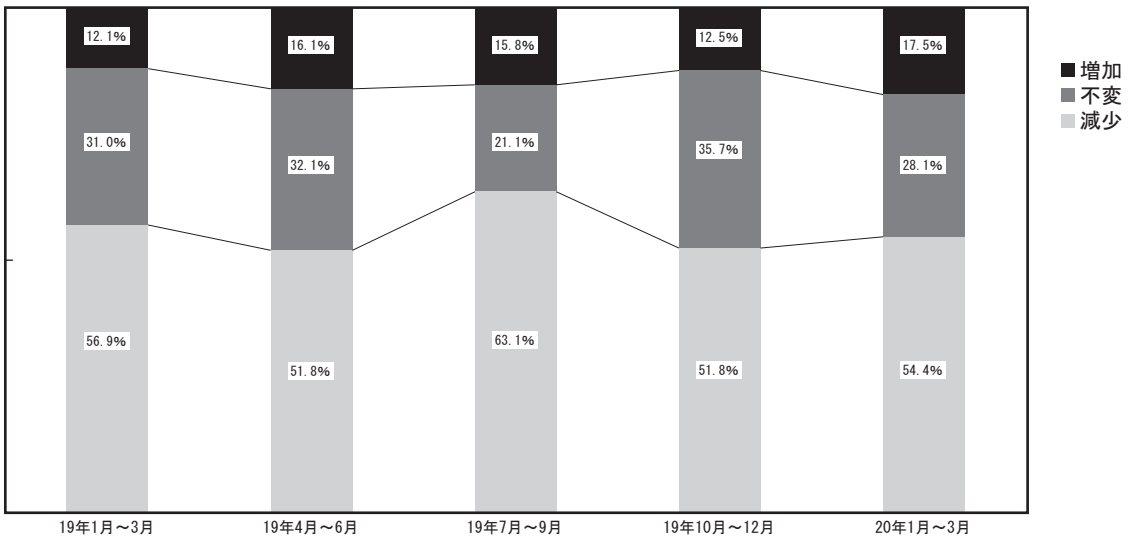


2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

下図は、ここ１年間の売上額状況の推移を示したものであるが、今期の売上額ＤＩマイナス36.9の中身を分析してみると次のとおりである。「増加」と答えた企業は前期7社の12.5%から3社増え17.5%になった。「不変」企業は前期35.7%から7.6ポイント少なくなり28.1%である。「減少」企業は前期51.8%からほぼ横ばいの54.4%である。ここ1年間で「増加」が最も多いことが、小幅であるが売上額ＤＩを改善した結果であることが分かる。

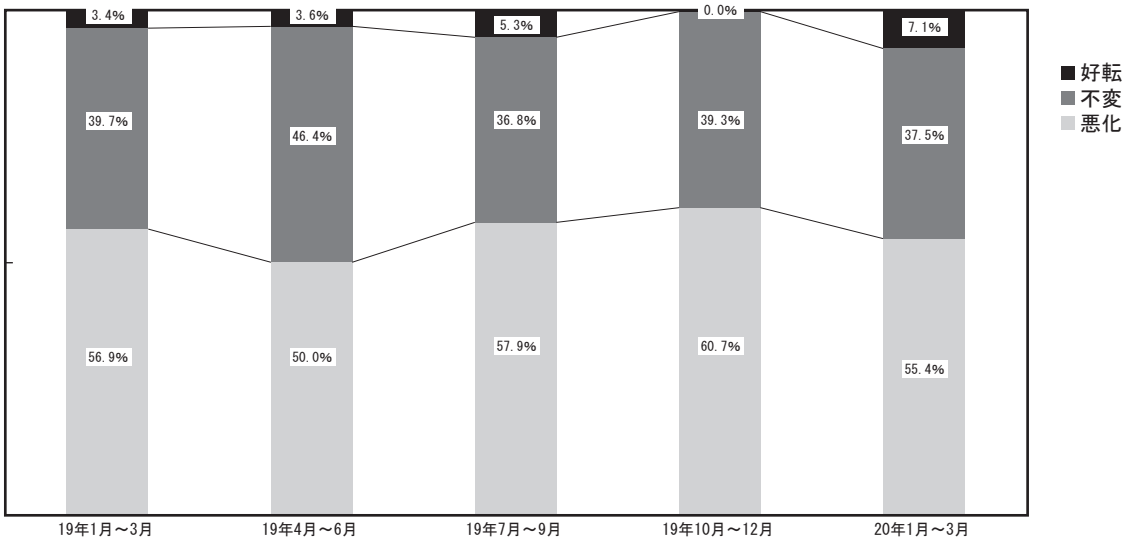
山梨県　小売業　　売上額の状況－前年同期比－



⑵　採　　算

下図も、この１年間の採算状況の推移を示したものである。今期の採算ＤＩマイナス48.3の内訳をみると、「好転」は前期ゼロから今期は4社の7.1%、「不変」は前期22社の39.3%から1社少ない37.5%、「悪化」は前期60.7%から多少減り55.4%である。この結果、採算ＤＩは前期より10ポイント上昇し、売上額ＤＩ以上の改善を見せた。

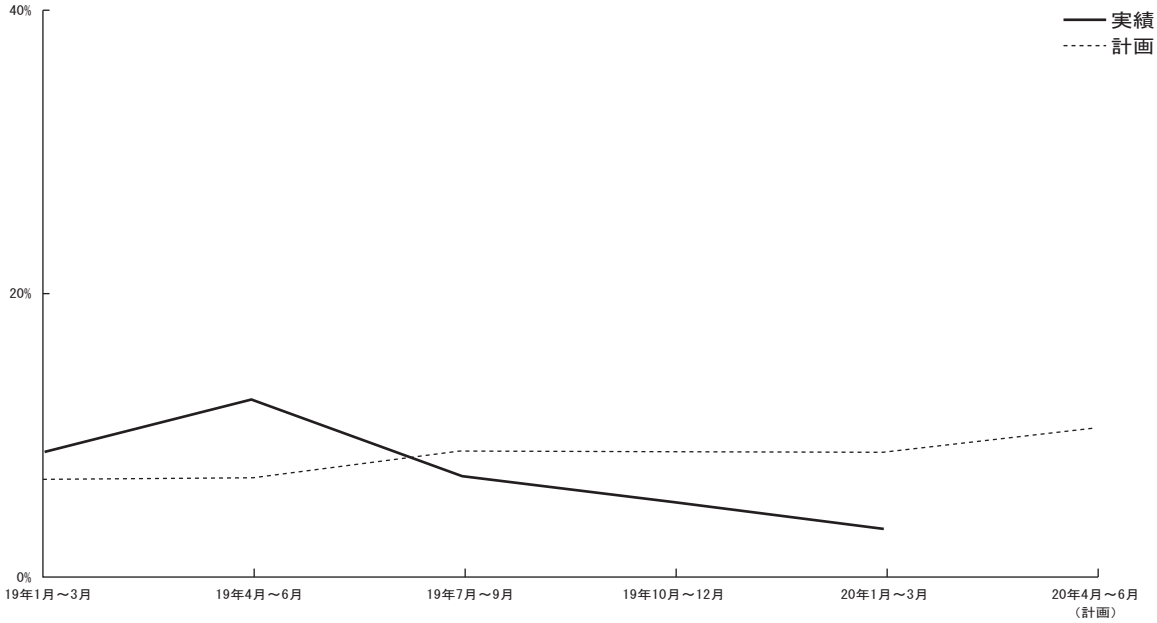
山梨県　小売業　　採算の状況－前年同期比－



⑶　設備投資

小売業の今期における設備投資状況をみると、実施企業数は前期3社5.4%が今期は1社減り3.5%である。その内容は「その他」が2件である。来期の計画は6社10.5%が実施を予定しており、「販売設備」3件「その他」2件「車両・運搬具」「付帯施設」「ＯＡ機器」各１件である。売上額および採算ＤＩの改善を受け、多少明るさが見えてきた結果なのであろうか。

山梨県　小売業 DI　　設備投資の状況

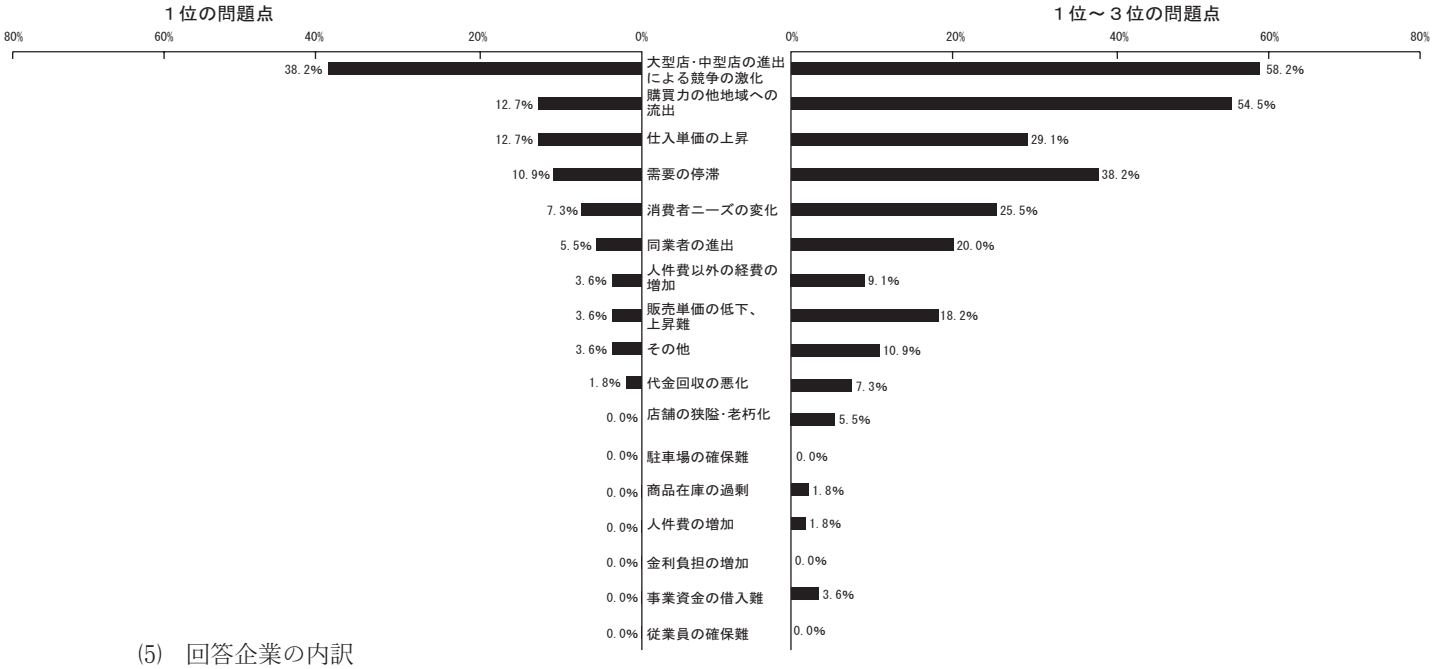


(4)　経営上の問題点

「一位」に挙げたものから見ていくと、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が相変わらず突出で21社が挙げ38.2%、続いて「購買力の他地域への流出」と「仕入単価の上昇」がそれぞれ7社の12.7%、「需要の停滞」が6社の10.9%である。

次に「一～三位」に挙げた答えをみると、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が32社の58.2%、「購買力の他地域への流出」が30社の54.5%で半数を超える。それから、「需要の停滞」が21社の38.2%、「仕入単価の上昇」が16社の29.1%、「消費者ニーズの変化」が14社の25.5%と目につくところである。空き店舗の増加問題に見られるように、規模間格差という構造的競争環境において、中小小売店は打つ手がないことが窺える。

山梨県　小売業　　経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5)　回答企業の内訳

業種別

業　　種	企業数	構成比(%)
織物・衣服・身の回り品小売業	10	17.5
飲食料品小売業	16	28.1
自動車・自転車小売業	3	5.3
家具・建具・じゅう器小売業	8	14.0
その他小売業	20	35.1
合　計	57	100.0

売場面積別

売　場　面　積	企業数	構成比(%)
50㎡未満	27	47.3
50㎡～100㎡未満	21	36.8
100㎡～200㎡未満	3	5.3
200㎡～500㎡未満	3	5.3
500㎡～1000㎡未満	3	5.3
合　　計	57	100.0

従業員規模別

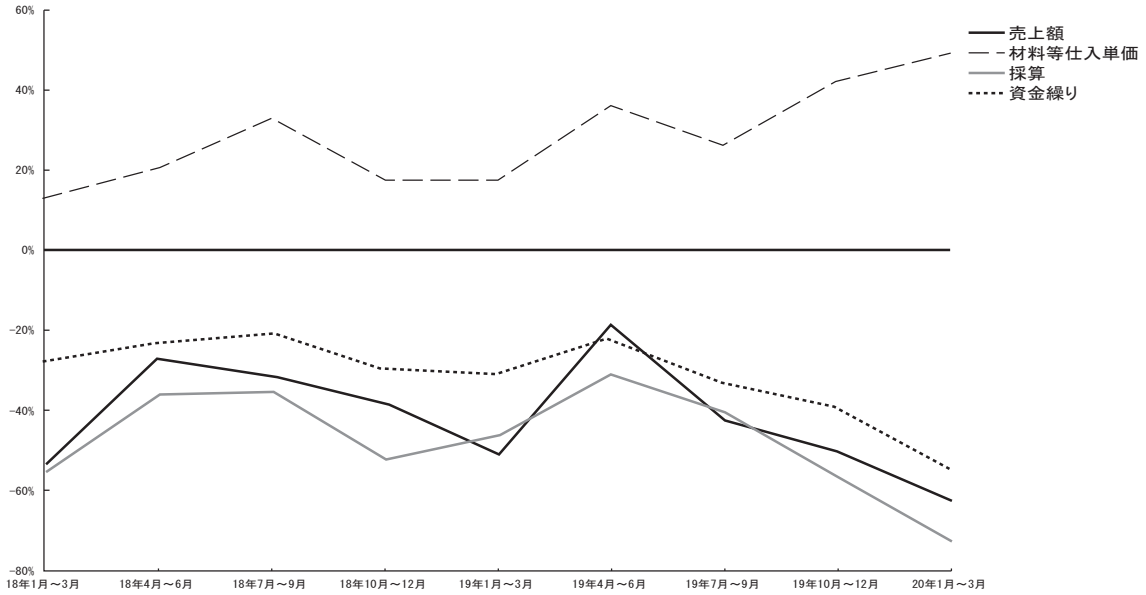
雇用形態 / 従業員数	常　雇　い		臨時等含む	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
２人以下	43	75.4	39	68.3
３人～５人以下	11	19.3	13	22.8
６人～１０人以下	3	5.3	3	5.3
１１人～２０人以下	0	0.0	1	1.8
２１人以上	0	0.0	1	1.8
合　　計	57	100.0	57	100.0

5. サービス業の動向

1. 景況概観

サービス業についても、売上額ＤＩは前記したので「材料仕入単価」「採算」「資金繰り」について触れてみたい。材料等仕入単価ＤＩであるが、前期の41.9から一段と上昇し48.7となった。来期の見通しは横ばいの48.9である。次に採算ＤＩであるが、前期マイナス55.9から更に悪化してマイナス72.7となった。非常に厳しい経営環境である。来期の見通しは、いくらか改善しマイナス63.6である。よって、資金繰りＤＩも、前期マイナス39.0から今期はマイナス54.5へ15.5ポイント悪化した。来期の見通しは、9.0ポイント改善のマイナス45.5である。売上額を含めこれらＤＩは、19年度第1四半期を境にして悪化の一途を辿っている。

山梨県　サービス業 DI　　主要景況項目の推移－前年同期比－

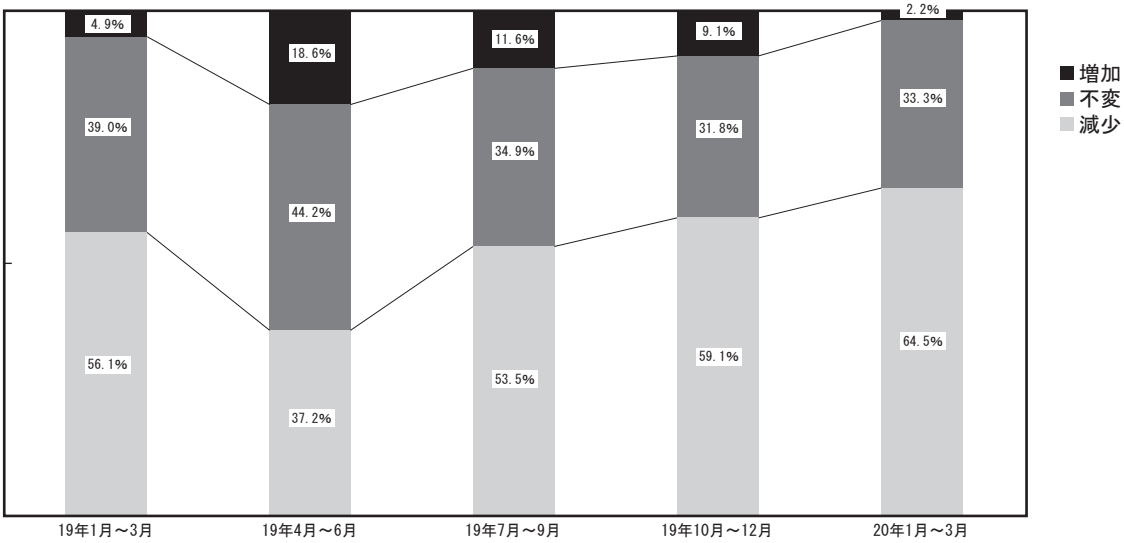


2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

この１年間の売上額の推移状況から、当期売上額ＤＩマイナス62.3の分析を進めると、「増加」が前期4社の9.1%から1社に減り、「不変」は14社の31.8%から1社増加し33.3%であった。「減少」は26社の59.1%から29社の64.5%となった。ついに、「減少」は6割を超えてしまった。この１年間で最も悪いＤＩであった。

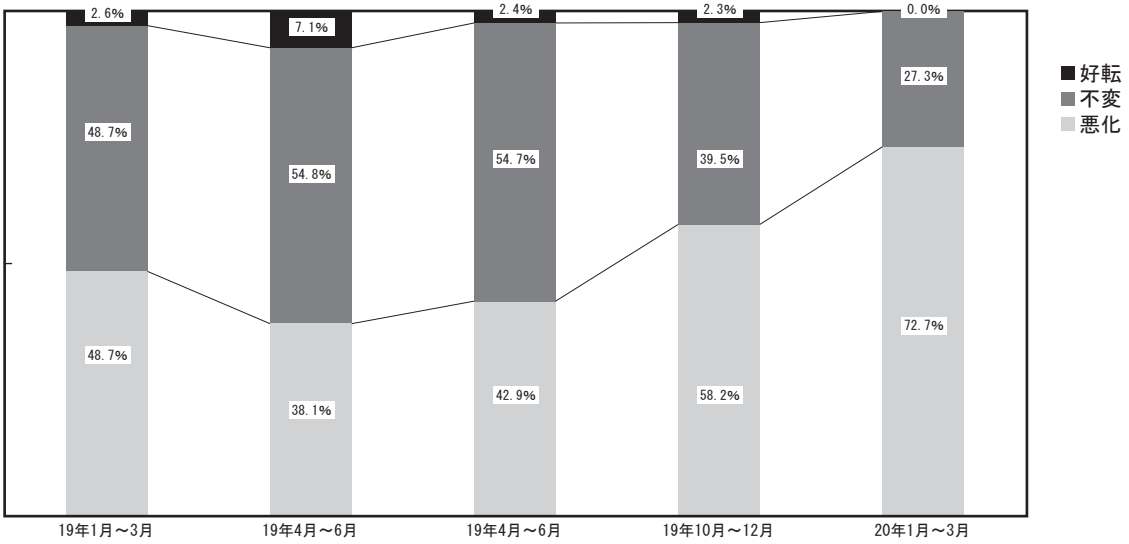
山梨県　サービス業　　売上額の状況－前年同期比－



⑵　採　　算

今期採算ＤＩマイナス72.7の内訳は、「好転」が前期の１社から今期はゼロになり、「不変」は前期17社の39.5％から今期は12社の27.3％に減り、「減少」は前期58.2％から回答企業数45社中32社の72.7％であった。採算状況は、前期より悪化したことにより、この１年間において最悪のＤＩとなった。

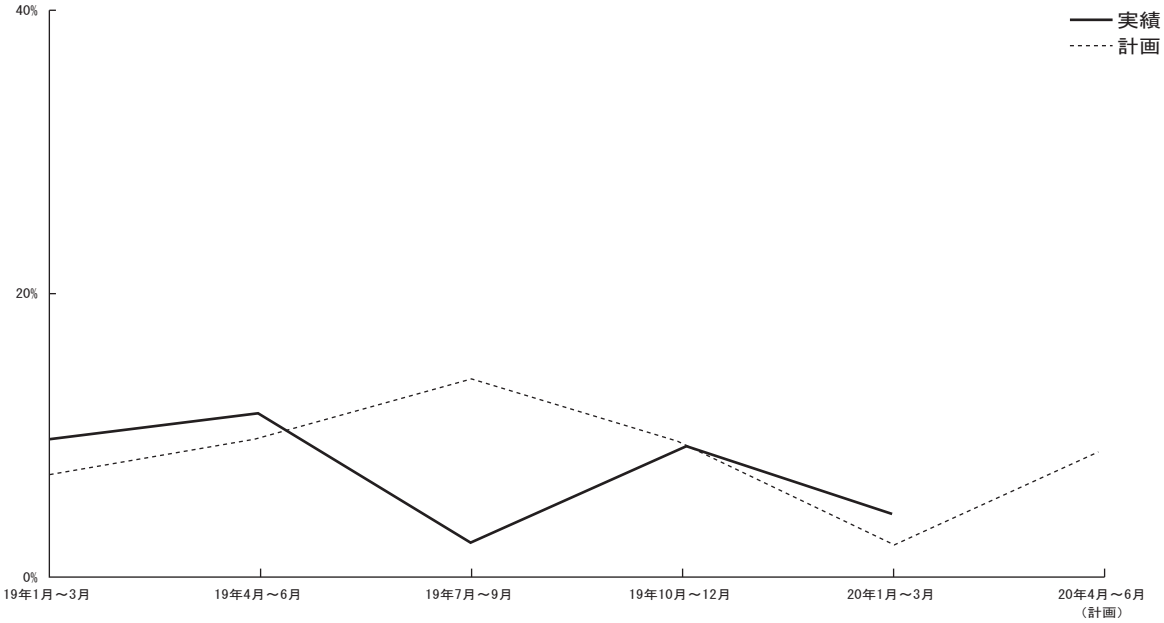
山梨県　サービス業　　採算の状況－前年同期比－



⑶　設備投資

サービス業で設備投資を行った企業は、前期4社であったが今期実施したのは2社であった。その内容は「サービス」と「付帯施設」各1件である。来期の計画については4社が予定し、「付帯施設」3件、「ＯＡ機器」2件である。

山梨県　サービス業　　設備投資の状況



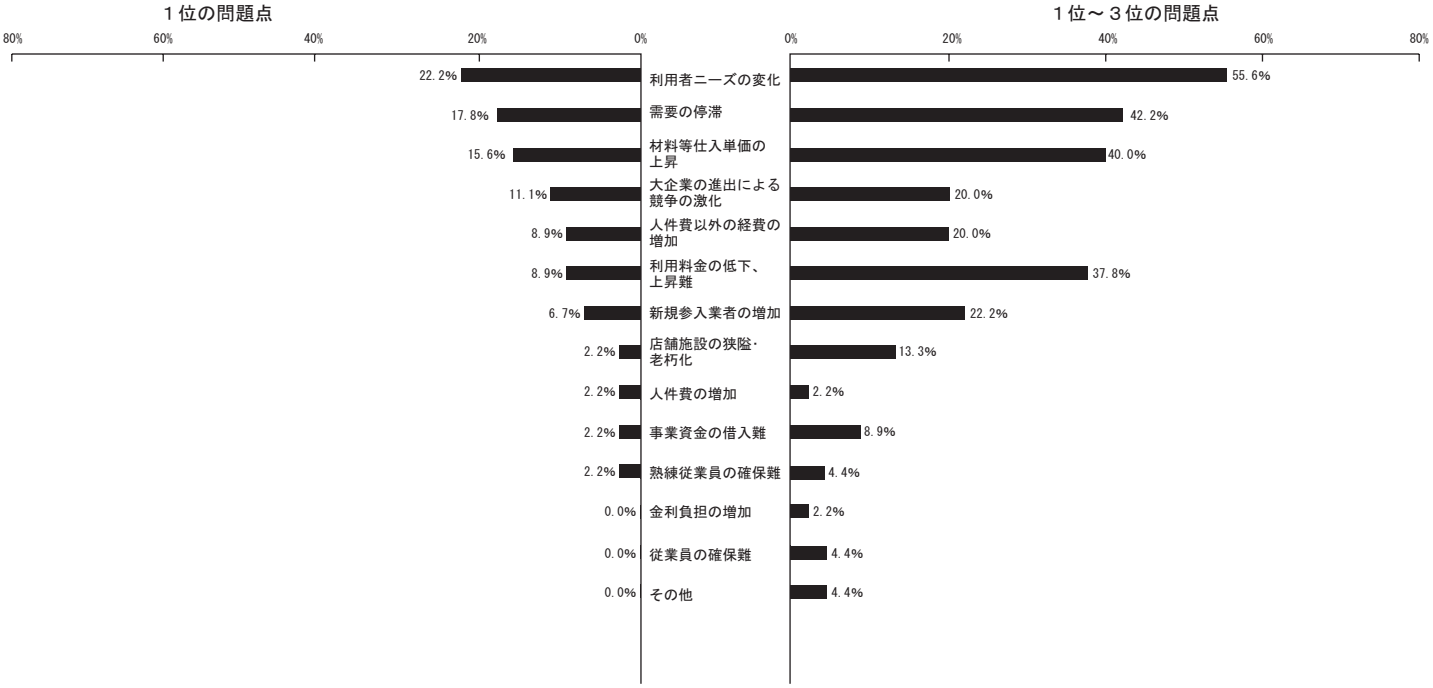
(4)　経営上の問題点

サービス業の経営上の問題点の「一位」は「利用者ニーズの変化」が10社で22.2%と最も多かった。続いて「需要の停滞」が8社の17.8%、そして「材料等仕入単価の上昇」が7社の15.6%、「大企業の進出による競争の激化」が5社の11.1%であった。

次に、「一～三位」に挙げたものを見ると、ここでも「利用者ニーズの変化」を過半数の25社が挙げ55.6%で最も多く、続いて「需要の停滞」が19社の42.2%、僅差で「材料等仕入単価の上昇」が18社の40.0%、「利用料金の低下、上昇難」が17社の37.8%となっている。

下記のサービス業種の回答企業をご覧いただくと、すべて消費者向けサービス業種であり、「一位」および「一位～三位」の回答で最も多かった「利用者ニーズの変化」に対して、苦慮している様子が窺い知れる。

山梨県　サービス業　　経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5)　回答企業の内訳

業種別

業　　種	企業数	構成比(%)
一般飲食店	11	24.4
旅館、その他の宿泊所	7	15.6
洗濯業、理美容業	18	40.0
その他のサービス業	9	20.0
合　計	45	100.0

従業員規模別

雇用形態 ＼ 従業員数	常　雇　い		臨時等含む	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
２人以下	33	73.3	29	64.5
３人～５人以下	8	17.8	8	17.8
６人～１０人以下	4	8.9	5	11.1
１１人～２０人以下	0	0.0	1	2.2
２１人以上	0	0.0	2	4.4
合　　計	45	100.0	45	100.0